

【専門分野】

科目	単位 (時間数)	年次	開講時期	担当者
老年看護学概論	1 (15)	1	第2学期	教員
目 標				
高齢者の特徴を理解し、QOLを考えた看護を理解する。				
ディプロマポリシーとの関連：DP1、DP2、DP5、DP6の達成に寄与				
回	時間	授業内容	授業方法	備考
1	2	1. 老年期にある対象の理解 1) 自己の高齢者のイメージ 2) ライフヒストリーから高齢者の生活や価値観を知る	講義 GW	
2	2	2. 加齢に伴う変化の特徴と身体的・精神的・社会的機能の変化 1) 老いるとは 2) 老いを生きるとは	講義	
3	2	3. 高齢者と社会 1) 超高齢社会・多死社会での現状と高齢者の生活 2) 介護保険制度	講義	
4	2	4. 加齢に伴う機能障害と生活 1) ヘルスアセスメント ①身体的健康 ②生活自立度 ③心理・社会的健康 ④環境 ⑤生活史 2) 高齢者総合機能評価 (CGA)	講義	
5	2	3) 身体の高齢変化とアセスメント ①皮膚 ②視聴覚 ③循環器 ④呼吸器 ⑤消化器 ⑥ホルモン ⑦泌尿生殖器 ⑧運動器	講義	
6	2	5. 高齢者の権利擁護 1) ステイグマ・エイジズム・権利擁護 (アドボカシー) 2) 高齢者虐待 3) 身体拘束 4) 権利擁護のための制度と倫理	講義	
7	2	6. 高齢者の特徴と看護 1) 老年症候群 2) 老年看護の役割 3) 老年看護に役立つ理論 ①サクセスフルエイジング ②選択最適化保証理論 ③コンフォート理論 ④ストレングスモデル	講義	
8	1	終講試験		
授業形態	講義および演習			
評価方法 点数配分	筆記試験 70点 講義での提出物・レポート 30点 他の事項については履修規程の第5条、第6条に定めるとおりとする			
テキスト	老年看護学 : 医学書院			
その他	参考資料は随時配布し、参考図書は講義内で紹介する			

【専門分野】

科目	単位 (時間数)	年次	開講時期	担当者
※老年看護援助論 I	1 (30)	1	第2学期	教員 院内講師
目 標				
高齢者の生命維持、健康生活の維持のための看護技術を理解する。				
ディプロマポリシーとの関連：DP3、DP5、DP2、DP4の達成に寄与				
回	時間	授業内容	授業方法	備考
1	2	1. 高齢者への日常生活援助技術 1) 高齢者とのコミュニケーション	講義	
2	2	2) 基本動作と環境 ①ADLとIADL ②転倒予防	講義	
3	2	③廃用症候群の早期発見と予防 ④フレイル・サルコペニアとリハビリテーション	講義	
4	2	3) 生活リズム ①高齢者と生活リズム ②生活リズムのアセスメント ③その人らしい生活リズムを整えるケア	講義	
5	2	4) 高齢者の基本的動作の体験 (高齢者体験スーツ) 5) 関節可動域 (ROM) の評価	演習	
6	2	6) 食事・食生活 ①高齢者に特徴的な変化 ②食生活のアセスメント ③食生活の支援	講義	
7	2	④誤嚥予防のための口腔ケア (義歯の取り扱いを含む)	演習	
8	2	⑤嚥下機能訓練	演習	
9	2	⑥経腸栄養 (胃管挿入)	演習	
10	2	7) 清潔 ①清潔の意義と健康課題 ②清潔のアセスメント ③高齢者の特徴をふまえた清潔ケア	講義	
11	2	8) 排泄 ①高齢者の排尿・排便障害のアセスメント ②高齢者の特徴をふまえた排泄ケア	講義	
12	2	③おむつ交換の実際	演習	
13	2	9) 薬物療法を受ける高齢者の看護 ①高齢者の薬物動態 ②高齢者の服薬管理のアセスメント ③服薬アドヒアランスを高める支援	講義	
14	1	2. 高齢者のフィジカルアセスメント 1) 身体に加齢変化とアセスメント	講義	
15	2	2) フィジカルアセスメントの実際	演習	
16	1	終講試験		
授業形態	講義および演習			
評価方法 点数配分	筆記試験 100点 他の事項については履修規程の第5条、第6条に定めるとおりとする			
テキスト	老年看護学：医学書院 老年看護 病態・疾患論：医学書院			
その他	※この科目は実務経験のある教員による授業科目である			

【専門分野】

科目	単位（時間数）	年次	開講時期	担当者
※老年看護援助論Ⅱ	1（15）	2	第1・2学期	院内講師 院外講師 教員
目 標				
老年期にある認知機能の変化に伴う患者の援助方法について理解する。				
ディプロマポリシーとの関連：DP2、DP5、DP4、DP1の達成に寄与				
回	時間	授業内容	授業方法	課題
1	2	1. 認知症高齢者の看護 1) 認知症のメカニズム・症状・治療 2) 認知症看護の原則	講義	
2	2	3) 認知症高齢者の環境調整 4) 重症度別、疾患別のコミュニケーション方法 5) 認知症高齢者と家族へのケア ①ユマニチュード	講義	
3	2	2. 認知症高齢者の理解 1) 認知症高齢者の視点から、心理的苦悩の理解 2) 認知症高齢者の残された力の発見と生活障害となる行動の対応 3) 認知症高齢者を地域で支える支援（認知症サポーター）	講義	
4	2	3. せん妄をきたす高齢者の看護 1) せん妄のリスク要因 2) せん妄の症状 3) せん妄の予防と早期発見 4) せん妄時の看護	講義	
5	2	4. 検査・治療を受ける認知症患者の看護 5. 認知症高齢者の看護の実際 1) 看護展開（状態別での関わり方について）	講義 GW	
6	2	2) ロールプレイ・評価	演習	
7	2	3) 認知症高齢者の看護についての振り返り・まとめ	講義 GW	
8	1	終講試験		
授業形態	講義および演習			
評価方法 点数配分	筆記試験 100点 他の事項については履修規程の第5条、第6条に定めるとおりとする			
テキスト	老年看護学：医学書院 老年看護 病態・疾患論：医学書院			
その他	※この科目は実務経験のある教員による授業科目である			

【専門分野】

科目	単位（時間数）	年次	開講時期	担当者
※老年看護援助論Ⅲ	1（30）	2	第1・2学期	教員
<b>目 標</b>				
<p>老年期にある対象の特徴的な疾患を理解し、加齢に伴う身体的・精神的・社会的な変化や健康障害に合わせた援助方法を理解する。</p> <p>ディプロマポリシーとの関連：P5、DP2、DP4の達成に寄与</p>				
回	時間	授業内容	授業方法	備考
1	2	1. 老人性白内障の患者の看護 1) 老人性白内障の症状 2) 治療 3) 看護	講義	
2	2	4) 老年性白内障患者の日常生活強みを着目した日常生活支援 (アドヒアランスを高めるための教育介入：転倒予防・点眼指導)	講義 GW	
3	2	5) 老人性白内障の看護の実際（転倒予防・点眼指導）	演習	
4	2	2. 老年期にある大腿骨頸部骨折患者の看護 1) 骨折の機序と症状 2) 検査および治療	講義 GW	
5	2	3) 老年期にある大腿骨頸部骨折患者の看護の実際 ①老年期にある大腿骨頸部骨折患者の強みを着目した 経過別看護(急性期・回復期・リハビリ期)	講義 GW	
6	2	②老年期にある大腿骨頸部骨折患者の強みを着目した 日常生活支援(生活様式を再構築するための脱臼予防)	講義 GW	
7	2	③老年期にある大腿骨頸部骨折患者の強みを着目した 日常生活支援(ADL・IADLを踏まえた転倒予防)	GW	
8	2	④老年期にある大腿骨頸部骨折患者の強みを着目した 日常生活支援(脱臼予防及び転倒予防)	演習	
9	2	3. 老年期にあるパーキンソン病患者の看護 1) 老年期にあるパーキンソン病の症状 2) 診断と治療	講義 GW	
10	2	3) 老年期にあるパーキンソン病患者の重症度(ホーン・ヤール)の分類と 生活機能障害度に合わせた看護	講義 GW	
11	2	4) 老年期にあるパーキンソン病患者の看護の実際 ①老年期にあるパーキンソン病患者の強みに着目した 日常生活支援(アドヒアランスを高める服薬管理)	講義 GW	
12	2	②老年期にあるパーキンソン病患者の強みに着目した 日常生活支援(ADL・IADLを踏まえた日常生活動作の維持)	講義 GW	
13	2	③老年期にあるパーキンソン病患者の強みに着目した 日常生活支援(病期に応じた廃用症候群予防)	講義 GW	
14	2	④老年期にあるパーキンソン病患者の強みに着目した 日常生活支援の実際(ADL・IADLを踏まえた日常生活動作の維持)	演習	
15	1	リフレクションを通して学習到達度を評価し、課題を明確にする	講義	
16	1	終講試験		
授業形態	講義および演習			
評価方法 点数配分	筆記試験 80点 課題提出点 20点 他の事項については履修規程の第5条、第6条に定めるとおりとする			
テキスト	老年看護学:医学書院 老年看護病態・疾患論:医学書院 成人看護学(7)脳・神経:医学書院 成人看護学(10)運動器:医学書院 成人看護学(13)眼:医学書院			
その他	※この科目は実務経験のある教員による授業科目である			